



TIAニュース



財団法人栃木県国際交流協会
Tochigi International Association

やあ!

2000
MAY
No.67

5



▲アメリカ・カリフォルニア州東部を南北に走るシエラ・ネバダ山脈にあるヨセミテ国立公園。東京都のおよそ1.5倍、3027km²の広大な公園内には、標高600mから4000mにおよぶ変化に富んだ自然や氷河が造りだしたヨセミテ峡谷の美しい風景がある。中央の奥には、「ボールを半分切り取ったような形の「ハーフドーム」という岩山が、左側には花崗岩としては世界最大の「エル・キャピタン」がある。

青年海外協力隊帰国隊員による派遣国紹介
シリーズ NO. 16

バスアニューギニア

ようこそとちぎへ

- 平成12年度県費留学生
- 中国・浙江省から県国際交流員

◆JETコーナー フランシス・クレイさん
(イギリス出身)

◆レポート とちぎ国際セミナー
‘WE NEED YOU’ 開催

栃木県高校生がフランスから帰国

TIAホームページ

URL <http://www.pto.co.jp/tia/>

退任のご挨拶

財団法人栃木県国際交流協会
前理事長 今井 聡彦



このたび、3月31日付けをもちまして理事長を退任いたしました。

平成10年4月の就任以来、県、市町村、関係機関及び関係団体等の皆様のひとかたならぬお力添えをいただいてまいりましたこと、心より深く感謝申し上げます。

私が就任いたしましたのは、協会設立10年目の年でありましたが、県内に住む外国人数の飛躍的増加などの中で、地域レベルでの一層の国際化が求められておりまし

た。経済環境は大変厳しい状況にありましたが、本県の国際化推進のための拠点施設として整備された「とちぎ国際交流センター」の持てる機能を活用しながら、県民、外国人のみなさまへの情報提供や相談事業をはじめ、諸外国との相互理解や友好交流を深めるための事業など、様々な国際交流、国際協力事業の着実な実施を心がけてまいりました。おかげをもちまして、おおむね順調に展開できたものと思っております。改めてお礼申し上げます。

21世紀を間近にして、インターネット等のめざましい普及など時代の変化を的確に踏まえながら、皆様から更に親しまれる協会になるよう期待いたしますとともに、皆様のご健勝を祈念いたしまして退任の挨拶といたします。

Announcement of Retirement

I have retired from my position as Chairman of the Tochigi International Association, March 31st of this year. I would like to express the deepest of thanks to all the prefectural as well as municipal organizations whose help I have received since assuming the role of Chairman in

April of 1998.

The year I began as Chairman was also the same year as Tochigi International Association's 10 year anniversary. Amidst the booming increase of foreign residents in Tochigi there was a call to bring more and more internationalization to the local level. Tochigi International Center was built, despite the severe economical conditions of the time, based on the idea of having the facilities promote Tochigi Prefecture's progression towards internationalization. Beginning residents, the center, by utilizing its many functions, attempts to deepen mutual understanding and friendship with various countries as well as conducting numerous international Association has progressed smoothly and for this I would like to once again express my deepest gratitude.

On the brink of the 21st century, with the remarkable spread of the internet era being precisely based at the changing of the times it is with my heart's desire that everyone becomes even more familiar with the Tochigi International Association. It is with the wish, along with my prayers for everyone's good health that I retire as chairman.

Masahiko Imai
Former Chairman

新理事長あいさつ

財団法人栃木県国際交流協会
理事長 小菅 充



このたび、4月1日付けをもちまして財団法人栃木県国際交流協会理事長に就任いたしました。

世界は今、政治、経済、文化などあらゆる面において大きく変動しつつあり、私たちの日常生活においても、それらの変化をしばしば実感させ

られます。人や物、なかんずく情報が地球規模で行き交う中で、在県外国人の数も増加するなど地域における国際化は確実に進展しております。

財団法人栃木県国際交流協会は、昭和63年10月の発足以来、在県外国人などに対する相談事業をはじめ、各種の国際交流事業や協力事業を実施し、本県の国際化推進に寄与してまいりました。今後とも、県民の皆様をはじめ、県や市町村、関係機関、団体等と密接に連携を図りながら、より充実した事業を展開して参りたいと考えておりますので、引き続き皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げ、挨拶といたします。

Greeting from the newly appointed Chairman

I have assumed the role of Chairman of the Tochigi International Association as of April 1st.

Today, the world's political, economical, cultural, etc. faces are changing dramatically. It is even changing so much that we can now feel it in our daily lives. With people, goods and especially information moving and exchanging on a global scale, and the total number of visitors seeking advice at the foreigners residing in Tochigi increasing, it is certain that the so to speak local internationalization is also progressing as well. Since the Tochigi International Center's inauguration in October 1988, the association has attempted to further Tochigi's foreigners as well as initiating in various international exchange and cooperation efforts. In the future as well, the Association plans to work together to plan even more substantial works in internationalization. To conclude I would like to kindly ask for everyone's support and cooperation.

Mitsuru Kosuge
Chairman

ようこそとちぎへ

welcome to Tochigi

平成12年度県費留学生 佐々木優子ケリーさん(20歳)

4月7日(金)ブラジルから成田空港に到着した。

本年度の県費留学生は、ブラジル・パラ州ベレン市出身の佐々木優子ケリーさん。この4月から宇都宮大学教育学部で、高齢者及び身体障害者、特に心臓病、関節障害などを持っている人達の生活改善



のための運動の研究を始めた。

佐々木さんはブラジル・パラ州立大学で体育学を専攻し、大学4年の後期に半年ほど、高齢者や身体障害者のための運動療法について大学附属のリハビリテーションセンターで実習や指導を行った経験もある。特に、高血圧、骨が弱い人のための理想的なトレーニング、運動器材を使った筋力トレーニングの指導も行ってきたとのこと。

彼女は平成8年度に、南米子弟短期研修生の一人として来県し、3週間ほど滞在した経験があり、今回の来日が二度目。ブラジルと比べ、かなり寒かったようだが、やがて日本の気候にも慣れ、また学生との交流も始まって、毎日が楽しくなりそうだと言う。

彼女はこの一年間の留学を通じて、年齢やそれぞれにあった運動を科学的な観点から勉強し、また、日本の進んだりリハビリテーション技術を習得したいと意欲的である。運動不足や逆に無理な運動が元で、各

種の障害が引き起こされることから、高度な技術を身につけて、高齢者や身体障害者のために役立てたいからだそうだ。

そして、留学後は体育教師を続けながら日本で学んだ技術を応用し、ボランティアで日系人及びブラジル社会のために働きたいという強い希望を持っている。

また、遠いブラジルから来たということで、宇都宮大学で勉学に励むことはもとより、栃木県内はもちろん日本各地を訪れ、日本の文化を学び、また、日本人の礼儀正しき、規律を守る姿勢も学びたいという。

彼女の趣味はカラオケ。ぜひ、クラスメートや友人といっしょにカラオケでいっぱい日本の歌を覚えて、歌いたいという、明るい現代っ子である。

今年度の留学生は、佐々木さん一人。頼れる先輩留学生がおらず、異国での生活に多くの不安があるかもしれないが、持ち前の明るさと気力で、日本の友人をたくさん作って、楽しく、有意義な一年間の留学生活を送ってほしいと思う。

栃木県国際交流員 (中国語担当)

施 華忠さん(34歳)



昨年度の栃木県国際交流員・毛依群さんの後任として、中国浙江省人民政府外事弁公室から施華忠さんが本県に赴任された。1年間栃木県国際交流課に勤務し、栃木県と浙江省の友好のために尽力される。

施さんが栃木県に来るのは5回目、昨年書画交流団の通訳として栃木県に来ていた。

杭州大学の外国語学部で、日本語を専攻された。その動機は、高校まで英語を勉強

してきたが、何か新しい言語を勉強したかったということと、世界史を学習した際に日本の歴史を学び、日本が高度成長期になぜこれほど発展し、これほど魅力のある国となったのかを、大学において研究したかったからだとのこと。

1984年7月の大学卒業後、浙江省人民政府の外事弁公室で日本との交流窓口を担当してきた。

これまで代表団随行の通訳として、宇都宮をはじめ、日光、栃木、矢板、今市市などを訪問したことがあるが、忙しい日程であったので、今は自転車であちこちゆっくり散策したりしているそうだ。

現在、宇都宮市内のアパートで一人暮らし。

栃木県は清潔なところという印象だそうです。

これからは日本の人達と接するチャンスが増えるので、多くの方々と交流し、両県省の架け橋となって、民間レベルでの交流にも積極的に参加したいそうだ。

趣味は山登りと卓球。また自然が好きなので、栃木県以外のところにも行きたいとのこと。

日本と中国の風俗習慣は似ている部分が多いが、料理に関しては異なり、納豆はどうしても食べられないという。それでも、日本の料理は出されたものはたいてい何でも食べられる。

施さんは、中国料理は出来るが人に教えられるほどの実力はないと謙遜する。

今、施さんが栃木県でやりたいと思っていることは、中国のことわざの由来や意味を網羅した物語を紹介しながら、そのことわざを理解してもらい、多くの人に興味をもってもらうための講座を行うことだそうです。

以前、福井に留学していたときも、このような中国文化紹介講座を開き、好評だったとのこと。今回、このような文化講座のために中国からスライドを持ってきたというくらいやる気十分である。

施華忠さんは、何回も来日している日本通でもあり、日本語も達者。国際交流員としての来県は初めてであるが、きっと日本語が更にうまくなって帰国するだろう。

施さんが今年一年間みなさんの地域にも顔を出すかもしれませんが、その時には、一言声をかけてあげてください。

パプアニューギニア PAPUA NEW GUINEA

オーストラリアの北方赤道の少し南に位置し、世界で二番目に大きな島ニューギニア島のほぼ東半分を占める。面積は日本の約1.2倍で、中央部にビスマーク山脈やオーエンスタンリー山脈などが走る。

コーヒー、カカオ、コブラ及び銅の生産が多く、特に銅はこの国第一の輸出品になっている。また焼き畑農業が行われ、キャッサバ、タロイモ、ヤムイモなどが栽培されている。約50の部族と700をこえる言語がある。

ケビエンの公務員

私が派遣されたケビエンは、首都ポートモレスビーから飛行機で約1時間半、ニューアイルランド州にある人口約5,000人程度の小さな町でした。

実際の仕事というのは、そのケビエンにある州政府のスポーツ課というところの公務員。州内にある小中学校等約80校を回り、スポーツ指導をすることが基本的な仕事で、小学校等ではサッカー、バレーボール、ラグビーの基礎となるスポーツ日本の小学校で誰もがやったことのあるキックベース、ポートボール、フットサルを教えました。また、準備運動の一つとして、相撲を教え、陸上競技などやオーストラリアで学んだエアロビクスも取り入れました。

派遣当初は、JICAと受入先の連絡に手違いがあったり、担当者が人事異動で変わったりしていたため、全然引き継ぎがされていない状態でした。従って、当初は住まいがなかったので、JICA専門家のところに居候をさせてもらっていました。

やっと1年後にボロボロの家をもらいましたが、この家も後から来た人が住居がな

くさかべりかる
日下部光さん（栃木市在住） JICA関東支部勤務

案内人



大学時代、教育学部で保健体育を専攻。

大学卒業後、TVで発展途上国の番組を見て、深い印象を覚える。その後、再び、経済学部で第三世界について学び、とにかく第三世界で自分の力を試してみたいという思いから、協力隊を受験。1996年12月から1999年3月までの2年3カ月、体育指導員として、現地で、主に子供たちの指導にあたる。

ルール講義中の
日下部さん



いという理由で、譲り渡す羽目になってしまったのです。

家に泥棒が・・・

結果的に家をもらったわけなんですけれども、パプアニューギニアは治安が悪くて、留守の間、泥棒に入られ、全て盗まれてしまいました。

その10カ月後には新しい家をもらい、スラム街から移動もしたため、こういう治安の問題に悩むこともなく、現地語も覚えたので特に大きな問題はなくなりました。

サッカークラブ
全国大会
大会大



サッカーチームの全国大会遠征

当初は、前任者のやったことの延長で感じて前任者のやっていた仕事しかやっていなかったのですが、やめようかどうしようかと思っていた時に現地の長老から激励され、なにかしたいという強い意欲がわいてきました。それが、サッカーチームの全国大会への遠征でした。

月に一度貨物船が食料品などを運

んでやって来るということを開き、これを利用すればなんとか全国大会に遠征することも可能じゃないかと考えたわけです。

サッカーチームを貨物船で連れていき、途中魚を釣って燻製にしたものを町で売りそれを遠征の費用としたのです。

全国大会に出場するメンバーも刑務所帰りのような者もいたりしたので、更生させるという目的で、出場させました。メンバーの年齢は18～30歳で、実力的にかなり上の者が多かったです。

日下部さんの住まい



主食はタロイモ

パプアニューギニアでは主食はタロイモでした。

雑草（クムという）とライスの組み合わせもよく行いました。

学校のお昼はたいてい家庭から持ってきていました。

ほとんどがパンでしたが、かぶと虫などの幼虫をくんせいにしたものを持ってくる子供たちもいました。

子供たちの昼食風景





▶アンティグアの土産物屋で織物実演をする先住民



シンシンというお祭り

9月のパプアニューギニアの独立記念日にあわせてスポーツ大会や芸術祭が町の中心部で繰り広げられます。

▶お祭りの風景



いろいろな村から集まって来て、3日間ぐらい練習したのち、ここでパフォーマンスをします。普通はスポーツ大会が終わった後の4時から行います。最後の夜は、一晩中祭りに明け暮れます。通常、このような祭りのことを現地では「シンシン」と呼んでいます。もちろん、日本の盆踊りなんかと同じように、祭りは男女の出会いの場ともなっています。

教育に飢えている子供たち

子供たちは概して教育という環境に飢えています。一般に小学生は、2時間位歩いて学校まで通学しています。小学校数は120校ほどありますが、中学校になると極端に少なくなります。

また、パプアニューギニアの子供たちは良く働きます。子供は、学校が終わったら働くものだという観念が一般的になっているのも理由のひとつです。



▶PNGの子供たち

ただで食べられる果物

わたしのいたケビエンは、日本では輸入品のため非常に高価な南洋果実のパパイア、マンゴー、椰子の実が自然にできるため、ただで食べられました。

また、豚はムームと呼ばれる石焼きの方法で丸ごと焼いて食べます。彼らの貴重な蛋白源となっています。特に彼らは日本人なら食べない脂身の部分を好んで食べます。たんばくの不足を油から摂取するようにしています。

▶野豚の捕獲



お酒についてですが、パプアニューギニアにはもともとお酒があったわけではないので、基本的にお酒本来の味というのがよくわかりません。このお酒はかつて日本兵が教えたもので、パイナップル、さとうきびなどから作っています。

しかし、最近は、オーストラリアの合併会社でSPビールがあり、これを週末に1本買って、海辺やジャングルに行き、ちびちび飲むのがパプアニューギニア風の飲み方です。

この時に話題に出るのは、もちろん女性の話とかです。

パプアニューギニアでも、お金がないと結婚できません。

一般的には結婚する女性の家に豚を何頭かあげたり、お金の代わりとなっているシェルマネーをあげたりします。

一番人気のある女性は、母系社会の島と呼ばれる「マヌス島」の女性で、この女性は働き者として評判が高いです。

この島では大家族で生活を共にしているため、老人を大切にしています。

また、同じ言葉の村の出身者（ワントークと呼ばれる）を家族として受け入れるため、いつのまにか大家族となっている場合も多いです。



◀島の風景



◀パプアニューギニアの女性たち

データ

パプアニューギニア



左下に黒、右上に赤の三角形。黒地には白い南十字星。赤地には幸福と親交の象徴とされる極楽鳥が、黄色で描かれている。

① 面積	462,840km ²
② 人口	440万人 (98年)
③ 首都	ポートモレスビー
④ 主要言語	ビジン語、英語 (公用語)
⑤ 民族構成	パプア人、メラネシア人
⑥ 宗教	プロテスタント (63%)
⑦ 通貨	カタリク (31%)
⑧ 元首	キナ
⑨ その他	イギリス国王 (女王) 協力隊員の派遣人数 4名 栃木県からは2人

JETコーナー

今市市国際交流員
フランシス・クレイさん
(イギリス出身・24歳)



日本に住んで2年になりますが、その前に日本語や日本の文化を4年間大学で勉強した私は、日本に興味を持ち始めて6年になります。

人によっては、私が日本のことに詳しくて、日本人にどう接すればいいのかをちゃんと知ってるだろうと思っているかもしれませんが、それは間違いです。JETに参加する前に、一度来日した私は、日本をある1つの型に分類しようとしました。そして、日本にあるたくさんの対照的な面によって強い衝撃を受けました。西洋にはないバイタリティーが日本や日本人にはあると思います。

電車で旅行する時、初めて外国人はこの対照的な面に遭遇します。電車は日本の美しい風景を通ります。伝統的な手で植えら

れた日本の田んぼや昔のままの神社が見えます。「あ！日本だ！」と言ってますが、その10秒後にはパチンコ屋、ゴルフ練習場、そしてぱっと燃え立つネオンがたくさん見える非常に違った景色を通ります。これが本当の日本？それともほんの一面？

日本人自身の中にも印象的な対比を見出すことができます。無表情な顔、通勤電車であうとうとしているサラリーマンは、曲がったネクタイで赤い顔のピエロとなって夜の宴会からふらふらとした足取りで帰宅します。制服姿の特徴のない中高生は、学校が終わると、虹色に着飾り、ブーツをはいてぶらぶら歩くギャルに変身します。ゲームボーイをもった子供を連れて買い物に行く母親たちは、祭日には着物を着て人形のように美しくなります。本当の姿はどちらなのでしょう。

日本に来る前からこの興味深い国への印象は深かったのですが、自分の先入観が現実の日本によって壊されました。分類できないほど多面性のある日本のことを、決まった型に押し込めようとすれば実際に分割できない日本の面を分割しようとしていることになります。日本はどんな国なのかという質問には、非常に範囲の広い返事が必要です。私は、そう思うようになってから、豊かな日本のいろいろな面を理解して楽しめる第一歩を踏み出すことができました。

Francis Clay

I have been in Japan for almost two years now and had studied Japanese language and culture for four years before that, bringing my contact with the land of the Rising Sun to a total of six years. To some this may suggest that I have an in-depth knowledge of how Japan only once before my JET experiences and at that time in my efforts to categorize Japan and the Japanese, I was struck by the many contrasts that exist in Japan which give it a vitality I have never come across in the West. The first of these contrasts occurs to the foreigner on almost any train journey across any part of Japan. The train passes through beautiful scenery; hand tended paddy fields, shinto shrines; the building blocks of traditional Japanese life. Ah! The Real Japan! Or is it? In the time taken to utter such words the train has moved into a very different landscape of Pachinko halls, golf driving ranges and flashing neon lights. The real Japan, or merely a glitch on the face of the real Japan?

The Japanese provide another striking contrast within themselves. White-collar workers; stony-faced, dozing on city-bounds trains or jolly, red-faced clowns, ties askew, rolling home from an office enkai? Schoolchildren; blank, faceless and uniformed or Ko-gyaru girls sauntering along in towering killer boots, decorated in every color of the rainbow? Mothers; battling round the supermarkets, towing their Gameboy-toting infants or doll-like, kimono-clad ladies? Which is their true face?

In each case, that one face disqualifies the other as a stereotype shows that to try to categorize the real Japan or the real Japanese is to try to divide the indivisible. By coming to terms with the fact that Japan cannot be put in a nutshell has brought me a step closer to accepting and understanding this rich, unique culture and its many fascinating faces.

レポート

とちぎ国際交流セミナー「WE NEED YOU」

3月18日(土)とちぎ国際交流センターで「WE NEED YOU」と題して林香君さんの講演会が行われた。林さんは台湾生まれで、10歳のとき来日し、東京芸術大学で学ばれ、現在は芳賀町にアトリエを構え陶芸家として創作活動をされるとともに、文星芸術大学の助教授として学生を教え、また下野新聞や読売新聞などにも執筆をされるなど多方面で活躍をされている。

当日は、これまで体験したことや感じた

ことをもとに、外国人との交流の必要性や心構えについて話された。

10歳時、全く日本語がわからないまま来日したが、トラブルが起こったときには、自分を延ばすチャンスだ、物事を知るチャンスだと考えて乗り越えてきたと話す林さんの人柄や、自ら外国人として日本で生活した経験にもとづく外国人に対する思いに、参加者もぐいぐい引き込まれ、予定した時間は瞬く間に過ぎてしまった。

林さんの講演終了後、参加者からも「わたしもWE NEED YOU、あなたもWE NEED YOUそんな心ある文化が広まっていくことに努めたい。」などの感想が寄せられた。「WE NEED YOU」が友人や知人、更に多くの人に広がっていくことを期待したい。

栃木県高校生がフランスから帰国

前号で紹介した栃木県の高校生5名が、3月14日～27日の2週間、パリ市やヴォークリューズ県を訪れ、本場フランスを体験してきた。

パリ市内では、エッフェル塔、ノートル

ダム寺院、ルーブル美術館等を訪れ、またマリーアントワネットでも有名なベルサイユ宮殿も訪れた。

また栃木県の友好交流先であるヴォークリューズ県では、ヴォークリューズ県議会を表敬訪問し、議長のジャック・ベラル氏から歓迎の挨拶を受けた。高校生はホームステイをしながら、カルバントラ市のファブル高校でホストシスターとともに様々な授業に参加し、体験学習を行ってきた。同時に、この滞在を利用してヴォークリューズ県の遺跡や文化遺産などの見学も行った。日本ではできない体験をし、多くの友人を作って有意義なフランス経験を積んできたようだ。



▲ヴォークリューズ県内のセナンク修道院の前で記念写真を撮る5名の高校生



講演される林香君さん

情報発信 地域の国際交流案内

★2000年度ワーキング・ホリデー研修会 in東京

▶実施日時＝8月5日(土)午後0時20分～8月6日(日)午後3時▶実施場所＝国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木)▶定員＝100名(定員になり次第締切)▶対象となる渡航希望国＝オーストラリア、ニュージーランド・カナダ、韓国、フランス▶参加費＝15000円(宿泊費、食費5日の夕食、6日の昼食込み)▶受付期間＝6月1日～7月19日▶資料請求・問い合わせ先＝日本ワーキングホリデー協会〒164-8512 東京都中野区中野4-1-1 中野サンプラザ7F TEL.03-3389-0181 FAX.03-3389-1563 ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/jawhm>

★ワーキング・ホリデー・オリエンテーション栃木

▶実施日時＝6月25日(日)13:30～16:30▶実施場所＝栃木県総合文化センター第1会議室(宇都宮市本町1-8 TEL.028-643-1000)▶開催内容＝ワーキングホリデー制度の説明、渡航に関するアドバイス、体験帰国者による情報提供、質疑応答等▶定員＝120名▶参加費＝1500円(資料代含む)▶申込方法＝電話で直接協会まで(定員になり次第締切)▶申込期間＝5月25日～6月19日▶資料請求・問い合わせ先＝日本ワーキングホリデー協会〒164-8512 東京都中野区中野4-1-1 中野サンプラザ7F TEL.03-3389-0181 FAX.03-3389-1563 ホー

ムページ <http://www.mmjp.or.jp/jawhm>

★第78回TOEIC 定期公開テスト

▶試験日＝7月23日(日)▶申込期間＝5月1日(月)～6月21日(水)▶受験料＝6615円(消費税含む)▶資料請求・問い合わせ先＝財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会東京業務センター〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL.03-3581-4701 フリーダイヤル 0120-40-1019 (24時間案) オンライン受付 <http://sp.toeic.or.jp/>

★第15次ラオス学校建設隊員募集

▶実施期間＝2000年8月16日～30日▶参加費＝180000円(成田発～成田着3回まで分割可)▶募集人数＝15名程度▶内容＝BACがラオスで過去に建設した学校の修復、ラオスの村の子供たちや村人との交流、トイレ建設作業への参加▶募集締切＝6月15日(木)▶選考方法＝書類審査、面接▶資料請求・問い合わせ先＝BAC仏教救援センター〒420-0042 静岡県駒形通1-5-5 TEL.054-272-5674 FAX.054-652-1982

★長期海外語学研修

▶参加対象＝17～30歳位まで▶開講時期＝4月・9月・1月▶研修国＝イギリス・アイルランド・アメリカ・カナダ・オーストラリア・マルタ・フランス・ドイツ・イタリア・スペイン・エクアドル・中国▶資料請求・問い合わせ先＝EFカレッジ日本事務局東京本部〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-6-10恵比寿MFビル14号館6階 TEL.03-5722-3011

★インドネシア・スンバ島植林ワークキャンプ

▶日程＝8月29日(火)～9月11日(月)▶内

容＝植林ワーク、スンバ島の人々との交流／生活体験／見学プログラム等▶募集人員＝25名(1～2名の引率者が同行)▶参加費用＝230000円▶募集締切＝8月4日(金)▶参加者募集説明会＝6月11日(日)、24日(土)、7月1日(土)▶資料請求・問い合わせ先＝特定非営利活動法人地球の友と歩む会〒102-0071 東京都千代田区富士見1-5-11奥田ハウス1階 TEL.03-3261-7855 FAX.03-3261-9053 ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/life/home/> 電子メール life@earth.email.ne.jp 問い合わせ時間 月～金曜日 10時～18時(土曜日は午後～)

★第15回スタディーツアー研修

アジアを舞台にした国際交流・国際協力
(1)タイコース▶募集人数＝25名▶募集締切＝平成12年6月下旬▶参加費＝275000円(研修参加費:225000円 旅行手配費50000円)▶研修日程＝8月1日～8月19日(19日間)
(2)スリランカコース▶募集人数＝25名▶募集締切＝平成12年7月下旬▶参加費＝285000円(研修参加費:190000円 旅行手配費95000円)▶日程＝8月30日～9月11日(12日間)※無料説明会(東京説明会)6月6日夜7時～8時半 6月15日夜7時～8時半 国立オリンピックセンター(東京都渋谷区神園町3-1)(大阪説明会)6月17日 午後3時～4時半 弁天町市民学習センター(大阪市港区弁天1-2-2-700)(名古屋説明会)6月18日午後3時～4時半 名古屋国際センター(名古屋市中村区那古野1-47-1)
▶問い合わせ先＝アジア交流研究所 〒113-0033 東京都文京区本郷2-24-1 本郷NYビル101 TEL&FAX. 03-5840-9566 ホームページ <http://www.asia3.com/> 電子メール asia@asia3.com

宇都宮 ↔ 成田空港

(直通高速バス マロニエ号)

空港ターミナル出発ロビーへ2時間50分!

	成田空港ゆき		宇都宮ゆき	
	宇都宮発	成田空港着	成田空港発	宇都宮着
●運賃・片道 大人 4,070円 小人 2,040円 ●15名様以上団体割引	5:10	8:00	8:30	11:20
	6:10	9:00	14:40	17:30
	8:30	11:20	15:40	18:30
	10:10	13:00	17:00	19:50
●お問合せ・ご予約は	12:00	14:50	18:10	21:00
	14:00	16:50	19:40	22:30

マロニエ予約センター または関東バス各営業所へ
☎(028)638-1730 関東バス

栃木県交響楽団 第69回 定期演奏会

曲目 モーツァルト／ホルン協奏曲第3番
シューマン／交響曲第3番「ライン」ほか

指揮
 山下 一史

ホルン
 ハンス・ピツカ

6/18

(日) 2:00PM ▶宇都宮市文化会館大ホール全自由席
 ¥1,500 宇都宮市内プレイガイド・チケットぴあ
 お問い合わせ 栃響事務局 ☎028-643-5288

TIA Information Corner

★国連英語検定試験

▶試験日＝第1次試験…2000年7月2日(日) 午前：A・C・E級、午後：特A・B・D級／第2次試験…2000年8月20日(日)(特A・A・Bのみ) ▶試験会場＝とちぎ国際交流センター(ただし特A級合格者の2次試験会場は東京になります。) ▶検定料＝特A級7300円／A級5100円／B級4000円／C級7300円／D級1600円／E級1300円(いずれも消費税込み) ▶申込期限＝2000年5月30日まで(郵送の場合5月31日の消印まで有効) ▶応募受付に関する問い合わせ先＝講談社国連英検事務局TEL03-3947-1320、試験実施に関する問い合わせ先＝日本国際連合協会TEL03-3270-4731

TIAライブラリー案内

(貸出のお問い合わせはTIAまで)

●新絵教材 I・II



日本語学習教科書

「新日本語の基礎 I・II」に準拠した絵教材。基本動詞、名詞、形容詞、疑問詞、序数詞、挨拶、病氣表現などを分かりやす

く教えられる視覚教材。教授内容により絵カードを幅広く自由に組み合わせられ、導入がより簡単に。少人数クラスに最適な携帯用サイズになっており、対象レベルは、Iは初級前期、IIは初級後期となっている。(海外技術者研修協会編／スリーエネットワーク発行／5600円＋税)

●愛華、光の中へ。



環境保護をテーマにした漫画「地球の秘密」を描き、わずか12歳でこの世を去った坪田愛華さんの生涯を一冊にまとめたもの。愛華さんが遺した絵や社会、理科の課題の紹介ともに、地球や環境に関するメッセージ、母親である坪田揚子さんの愛情あふれる手記などで構成されている。(坪田愛華・揚子著/朝日出版社発行1456円＋税)
※この「地球の秘密」の本・ビデオもTIAライブラリーに蔵書されているので併せてどうぞ。

TIA日誌

2000年3月1日～2000年4月30日

- 3/3 太極拳入門講座
- 3/4 マルチカルチャー講座③
- 3/7 太極拳入門講座
- 3/9 県費留学生・海外技術研修員・自治体職員研修員修了式・送別会(ニューみくら)
- 3/10 日仏青少年短期研修事業第5回研修会(センター)
太極拳入門講座
- 3/11 マルチカルチャー講座④(センター)
- 3/14 日仏青少年短期研修事業高校生フランス派遣(～27日)
太極拳入門講座
- 3/16 太極拳入門講座
- 3/17 県費留学生・海外技術研修員帰国
- 3/18 とちぎ国際セミナー開催(センター)
マルチカルチャー講座⑤

- 3/22 TIA評議員会(センター)
- 3/24 TIA理事会(センター)
- 3/29 日仏青少年短期研修事業高校生フランス派遣帰国報告会(センター)
- 4/7 県費留学生入国
- 4/8 県費留学生協会表敬
- 4/11 県費留学生知事、副知事、部長表敬

第27回理事会・第23回評議員会(3月開催)における承認事項

- 1 平成11年度財団法人栃木県国際交流協会収支予算の補正について
- 2 平成12年度財団法人栃木県国際交流協会事業計画について
- 3 平成12年度財団法人栃木県国際交流協会収支予算について
- 4 財団法人栃木県国際交流協会役員の選任について(理事会)
- 5 財団法人栃木県国際交流協会理事長の互選について(理事会)

TIA賛助会員募集中!

賛助会員になっていただきますと、TIAの機関紙、各種刊行物、催事情報等をお届けします。またテレビ方式変換ビデオ(海外→日本、日本→海外)をご利用できます。その他、会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円です。
※賛助会費と出捐金の運用益は、TIAの様々な事業に使わせていただいております。地域の国際化のために役立っています。

<新規賛助会員の方々>

個人：遠島信一様、荻野治子様、ホリー・ロバーツ様
～ご入会、ありがとうございます～

編集後記

○研修員・留学生が無事帰国した。今年度はなんだか後半ハズニング続きだったが、無事帰国してほっとしている。空港で、ネパールからの研修員(彼は度々トラブルっていたのだが…)が出国検査場に行こうとして大慌て。なんと「航空券もらってない!」と言う。本人の荷物が多くて、搭乗券をどこに入れたか忘れてしまったためだが、最後の最後まで心配させてくれる研修員でした。

○私(F)が今号から機関紙を担当することとなりました。どうやっていいのかわからず、四苦八苦しているような感じですが、ぜひご慈悲を!(今後どうなることやら…)

※財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人(寄附金の損金算入等の課税特別措置)の認定を受けております。当協会の事業にご賛同下さる各企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。

TIAご案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会
住所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
TEL 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
FAX 028-621-0951
業務時間 8:30～17:15
休館日/日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日